

滋賀県立高等専門学校構想推進本部会議（第5回）議事概要

令和8年1月15日開催(9:00~10:47)

出席者：

三日月滋賀県知事（本部長）、井手公立大学法人滋賀県立大学理事長（副本部長）、櫻本野洲市長、学識経験者（塩瀬京都大学総合博物館准教授、渡辺立命館大学理工学部教授）、各機関関係者（北村公立大学法人滋賀県立大学理事（県立高専校長予定者）、岸本滋賀県副知事、松田滋賀県総合企画部長 他）

三日月知事（本部長）：

- ・ 常日頃、高専設置に向けて様々な御示唆や御指導をいただいている関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。
- ・ 八尾先生が2年前に御逝去された。賜ったお教えを体現・具現化できるように頑張っまいたい。
- ・ 皆様の努力、御尽力、御協力のおかげで着実に前進しており、本日はその状況を御確認いただくとともに、これから先、進むにあたっての様々な課題や考えるべきことなどについて共有したい。
- ・ この秋にいよいよ設置認可申請を行うことになる。そういう意味で、もう一つハードルを越えていかなければならない。このハードルは決して低く、また生易しいものではない。人口が減る中で、新たな学校をつくっていくという設置認可申請は簡単なものではなく、しっかりと理論武装をして、夢を描きながら実務もしっかりと説明できる準備をしまいたい。
- ・ この高専から巣立っていく学生には、高い技術力、専門性を持って出ていくことはもちろん、社会や世界に対する大きな志や、琵琶湖をはじめとする自然、人々、生き物に対する慈しみやいたわり、愛の心を備えたエンジニアになってほしい。
- ・ 教育手法の一つとしては、プロジェクトベースドラッシングを取り入れながら、様々な変化する多様な社会の課題を解決していくためのソリューションを見出していけるような、知識、行動、実践がセットになった知行合一の人材育成を目指していこうと標榜しているところ。
- ・ そういう思いを具現化・体現化するために、乗り越えていかなければならないハードルを、共にどのように乗り越えていくのかということについて、本日は忌憚のない御意見を賜りたい。教育や研究という視点から、こういうことも必要なのではないかとということも、ぜひ御議論いただきたい。

<議題 (1) 報告・共有 ア 設置準備状況について>

事務局：資料1に基づき説明

(質疑応答)

- ・ 広報・周知活動について、確実に浸透してきており大変頼もしく思っている。認知度も令和5年度から徐々に上がってきており、引き続き定期的にやっていただきたい。SNSを使った周知活動は、閲覧される方だけではなく、フォローされた方のアカウントに集中的に情報を伝えていくような工夫や、関心がある人をしっかり掴んで効率的に情報伝達するようなことは考えているのか。
→ 今年度はまず広く認知度を高めるということをやっている。地域別や年齢別の傾向が大体分かってきたので、次年度以降については、入試を控えているということもあり、できるだけ多くの方に受験していただけるよう、広く浅くではなく、どこに集中的にしたら良いかということを考えなが

らやってまいりたい。なお、今行っているのはブログであり、SNS は行っていない。

- ・ 今後 SNS をされる予定はあるか。
 - 検討はしているが、まだ具体的にはなっていない。
- ・ 直近で受験を考える層、中学校への広報活動は、今後どのように考えているのか。
 - 今年度から出前授業を試験的に行っており、1月20日には安土中学校に行く。小学校高学年や中学生ぐらいになると、恥ずかしがってなかなか参加しないということもあるので、授業の仕方も工夫しながら周知を図ってまいりたい。今後は、小・中学校を中心に広報活動をしてまいりたい。
- ・ 県内市町教育委員会や校長会での説明時、どのような反応があったか。
 - これまで滋賀県に高専がなかったということもあり、高専がどういうところかをご存じないことが多い。そのため、入試や、どのぐらいのレベルの子が入学されるのかというようなことについての質問をいただく。これについては、検討段階のため、今後御説明させていただくとお答えしていると同時に、既存の国立高専の状況を御紹介させていただいている。
- ・ 進路指導は受験の際に大きな要素かと思う。
 - 今のところは、国立高専なら大体このぐらいのレベルとしか御紹介できないが、今後は戦略的に広報してまいりたい。
- ・ 若い世代は TikTok を見ているため、いい意味で刷り込みができれば非常に有効な手段である。静止画よりも動画の TikTok は良いと思う。何か見せられるものができた段階で、ぜひそういったツールを活用していただきたい。
- ・ 令和8年春頃に中学生・企業を対象に予定されているアンケート調査は、どのような中身をイメージしているのか。
 - 認可申請に必要な。どれぐらいの受験希望者があるかが第一なので、県内の全中学校に対し、高専を含めた進路の希望状況を調査したい。また、県外からも通えるということを考えているため、京都や高槻など、一定の通学範囲圏の中学生にも希望調査をしたい。
- ・ アンケート調査の際、通学がどういう形になるのか、例えば公共交通機関を使って野洲駅まで行く、そこから徒歩なのか、自転車なのかをもし把握できるのであれば、調査項目に入れていただきたい。当然、自転車となると、それなりの整備も考えられる。
 - 参考にさせていただく。
- ・ 令和6年度の草津での高専フェアを拝見した。多くの方が参加されていたが、楽しさを重視したイベントだったということもあり、中学生はあまり見かけず、どちらかというと小さな子どもが多かった印象。できれば中学生が来られるようなイベントをやっていただきたい。ただ、中学生ぐらいになると、恥ずかしいとか、なかなかそういうイベントに参加するという気持ち自体がまず起こらないと思うので、小さな子ども向けの内容よりも、少し考えるような内容も面白いかもしれない。企画も難しいところではあるが、少し工夫していただき、中学生の認知を上げていただきたい。
 - 高専フェアでとなると、一般のお客様が入ってこられることになるため、難しいことをやってもなかなか人が来ないということもある。中学校への出前授業は今年度から始めているが、各学校に出向いて授業する形と、場所を借りて公開の授業をするという2つの形を考えている。中身については、昨年末には、長浜市で地震関係、液状化の仕組みなどについて行った。この1月20日は、電気・電流について授業し、高専フェアのように少し手を動かして遊んでもらうというよりは、一定の専門的な内容についても理解いただくプログラムを考えているところ。模索中であり、中学生向けにはどういう内容が集まっていたかだけを考えているかを考えながら進めてまいりたい。

- ・ よく保護者の方が、高専は専門学校なんじゃないかと言われているのを聞く。専門学校と高専とは違うというところをぜひ広報していただきたい。
 - 専門学校だけでなく、工業高校、大学との違いについて、あまりイメージが湧かない方が多いと思う。そのあたりも重点的に、高専は高等教育機関であること、5年間学べることなどを積極的に広報してまいりたい。
- ・ イベントについては、会場の事情もあると思うが、東と南が多い。西側地域に今後どのように実施されていくのか。ただ、認知度が59%はあるので、県内全体の68.5%に比べても少々低いかなくらいと思っている。
 - 通える高専ということで、野洲駅は県の中央でもあり、県外の方も来やすいことから、まずは琵琶湖線沿線を重点的に実施している。今後、西側についても周知を図ってまいりたい。県内と併せ、京都も非常に多くの志願者が見込めるとしており、京都あたりでもイベントを考えているところ。
- ・ 10～20代の認知度が低いという話があったが、12～14歳あたりが知っていればいいと思う。それ以上の年代は入学してこない層なので、どちらかという保護者世代に認知してもらうことが重要。子どもたちが知っていても、家族が知っていないと、なかなか結びついてこないところがある。40%という点にはそれほど強い危機感を持っていないが、可能であれば家族で話してもらうということも含め、全体的に認知度が上がっていけば良いと思う。
 - ターゲットになる年代と保護者の年代に加え、祖父母もかなり興味がある年代になるので、その3つあたりがポイントになってくると考えている。
- ・ 県外の認知度が低い点は、イベントも含めて仕方がないことかと思うが、もっとやっていかないといけない。野洲駅からどう行くか、野洲という地を県外の方がどうイメージされているかというところを踏まえ、場所や時間の細かいところも含めて広報していただきたい。
 - 県外の認知度の5.3%については、高専に進学される方自体が全体の1%程のため、それほど低い数字ではないと考えている。しかし、県外の方に聞くと、滋賀県はリゾート地で遠い場所というイメージがあるようである。そういうイメージがなくなるように、例えば京都から野洲は新快速で30分、大阪から60分という時間も積極的に周知をしていきたい。野洲駅からの近さをもっと周知していくことも大事だと考えている。

<議題 (1) 報告・共有 イ 野洲川 MIZBE ステーションの進捗状況について>

櫻本野洲市長：資料2に基づき説明

(質疑応答)

- ・ グラウンドは高専の体育の授業でも利用させていただこうと思っているので、よろしく願いしたい。同じ時期に2つのものができるということで、うまく高専と市民の皆様の活動とが連携できれば良いと思っている。

(報道機関退出)

<議題 (2) 設置認可申請に向けた意見交換>

※意思形成途上にある設置認可申請内容を扱うことから、非公開

以上